

アンケート調査による地域の実態・意向の把握について

1 背景と目的

- 鳥獣害対策を考えるとき、労力・費用と、効果のバランスを考慮する必要があります。
- 「労力」は人によって感じ方が異なり、特に高齢化が進んだ地域では「労力」を大きく感じる傾向があると考えられます。

被害額<労力・費用 → 対策を実施する気にならない

被害額>労力・費用 → 対策を実施する気になる
- また、重点的な対策を必要とする対象獣種の見極めも大切です。
- そこで、アンケート調査による地域の実態及び意向の把握に取り組みました。

2 方法

【対象地域の概要】

- 瀬戸内島しょ部の柑橘類の産地。高齢化が進み、生産者の平均年齢は約70歳。イノシシ、ヒヨドリの被害が多い。

【アンケート調査の内容】

- 対象：柑橘生産者35名
- 質問項目：被害の程度、最も被害が深刻で対策が必要だと思う獣種、被害額（個人の実感）、鳥獣の出没状況、実施している対策

3 結果

- 個人の実感としての被害額と、最も被害が深刻だと思う獣種を照らし合わせてみると、被害額が少ない人はイノシシの被害が深刻であると回答し、被害額が多い人はヒヨドリの被害が深刻であると回答しました。
- 防護柵は85%が設置済みで、防鳥ネットや果実の袋掛けの実施は20~30%でした。
- これらのことから、当地域でのイノシシ被害は、防護柵の普及率の高さと被害金額の低さから、改めて対策を実施するほどの被害規模ではないと考えられました。
- 一方、ヒヨドリ被害は、防鳥ネット等の普及率の低さと被害金額の高さから、被害が深刻で対策が必要であると考えられました。

R3被害金額	獣種
0	イノシシ
0	イノシシ
0	
0	イノシシ
0	
0	ヒヨドリ
0	メジロ
0	
0	イノシシ
0	イノシシ
1,000	
10,000	イノシシ
10,000	イノシシ
10,000	カラス
20,000	ヒヨドリ
20,000	カラス
30,000	ヒヨドリ
30,000	カラス
30,000	ヒヨドリ
50,000	ヒヨドリ
50,000	メジロ
100,000	ヒヨドリ
300,000	ヒヨドリ
400,000	カラス
400,000	ヒヨドリ

4 考察

- 地域の被害実態と生産者の意向を把握するためには、アンケート調査で「個人の実感としての被害金額」を聞くのが有効です。被害金額は、その生産者が鳥獣被害にどの程度困っているかを表す指標となり、被害の深刻度合や、対策の必要性に直結します。
- アンケート調査では、「正確な被害金額」は必ずしも必要ではなく、「個人の実感としての被害金額」を聞き取ることがポイントです。

※詳細は「動画で見る有害獣捕獲マニュアル」に掲載しています。

URL : <https://ehime-hunting.com/pages/?p=5274>

